

2022年8月17日

苫小牧市長  
岩倉 博文 様

苫小牧港の軍港化阻止実行委員会  
実行委員長 横山 傑

【公印省略】

第7師団の長距離機動訓練(戦車の公道自走)の中止、及び苫小牧西港の軍事利用反対を求める要請  
「苫小牧港まつり」会場での自衛隊車両展示の中止を求める要請

日頃の市政へのご精勤に敬意を表します。

さて、陸上自衛隊第7師団は8月22日、午後9時から東千歳駐屯地から苫小牧西港まで戦車等の公道自走訓練を行うことを発表しました。これは自衛隊北部方面隊の長距離機動訓練の一環として、戦車を含む装甲車両数十両が苫小牧西港からフェリーで釧路港を経て釧路駐屯地までの長距離を移動するものです。

苫小牧市は、2002年(平成14年)に「苫小牧市非核平和都市条例」を制定しています。恒久平和と核兵器のない平和の実現に向け努力することを謳う苫小牧市の東西の港は、軍事利用されることなどあってはなりません。

そして、苫小牧港から釧路港まで海上機動する民間船舶(ナッチャンワールド)は、青函航路で運航していた高速フェリーでしたが、防衛省との契約により改造され防弾板を装着し、船員は予備自衛官として任務に当たる防衛輸送船ともいわれる船舶です。有事の際には72時間以内に投入可能な体制が約束され、既に一般的なフェリーとは別格の船舶であり、その入港が毎年のように当たり前のように繰り返されることに、「苫小牧市非核平和都市条例」を誇りに思う市民として強い違和感を覚えると同時に、条例の規定が空洞化されていくことに懸念を抱かずにはいられません。

核兵器使用の現実的使用を公言するロシア・プーチン政権によるウクライナ侵略の蛮行は絶対許されません。しかし、このような時だからこそ、核兵器の「共有」や「軍事対軍事」の対抗を促す論調に与するのではなく、唯一の戦争被爆国である日本が「核兵器禁止条約」へ向かう国際的な大きな運動でイニシアティブを取っていくことが、国際社会でも求められているのではないのでしょうか。軍備の拡大に血眼になるのではなく、平和憲法を生かした「平和外交」を着実に進め積み重ねていくことこそが必要なのであり、条例で「市民が安全で健やかに心ゆたかに生活できる環境の確保」を目的とし、「日本国憲法に規定する恒久平和の意義」と「非核三原則の趣旨」を広く市民に普及することを定めた苫小牧市は、その先頭に立つ姿勢を示していくべきではないのでしょうか。

以上の趣旨から、貴職に対し下記の項目を要請しますので、21日までご回答下さるようお願いいたします。

記

1. 「非核平和都市条例」を有する苫小牧市の公道で戦車等の自走訓練があたりまえのように行われることに反対する姿勢を、市長は市民を代表する立場として表明すること。
2. 戦車等が多くの住民の安穏な夜の時間帯に公道を自走し、住宅街を自走することは市民生活にも悪影響を与えるものであることを踏まえ、住民に不安を与えることがないように自衛隊に申し入れること。
3. 可能な限り詳細な情報を市民に適切な形で提供すること。
4. 「第7回苫小牧港祭り」会場で自衛隊車両の展示が初めて行われました。平和な港祭り会場には似合いません。来期からの中止を求めます。